

事例13:長生きの秘訣 いきいき暮らし

発表テーマ:認知症高齢者ケア／利用者ニーズ／利用者家族ニーズ
／自立支援／利用者生き生き支援
事業所名:恵泉グループホーム
担当者:管理者 池田 宏美、介護職員 石本 愛実

施設・事業所紹介

平成12年4月に開設。少人数の家庭的な生活環境のもと、認知症の方が落ち着いて自分らしく暮らしていくことができるように支援しています。2階建て、各階9名2ユニットで18名が入居。

【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

今年度の施設の研究テーマとして「健康を維持してグループホームで長く生活するために」を掲げており、その為に「①全身機能の維持」、「②認知機能の維持」、を課題とし、取り組むことで心身機能の維持向上を目指し、その人らしい暮らしを長く続けて頂ける環境づくりを目標としています。

2 具体的な取組内容

「①全身機能の維持」について、リハビリ技能訓練士、栄養士との連携により多職種協働を実践。健康維持の為個人リハビリの実施、生活期リハビリテーションの実施、栄養士が企画する手作りおやつレク、手先の技巧性の維持、楽しみのある暮らしの提供などの取り組みを実施しました。



「②認知機能の維持」について、家事・趣味活動をケアプランに組み込み、レクリエーションのカレンダーを作成し、全職員が実施出来るように環境整備を行いました。生活期リハビリテーションとして、本人のやりたい事、やってみたい事をヒアリングし実施につなげました。

趣味活動・編み物



日本舞踊をされていた方による着付け教室



レクカレンダー



また、コロナ禍でも出来るコミュニケーションとして①や②の取り組みの様子や暮らしの様子を法人のホームページに掲載するとともに、独自に作成したグループホーム通信を家族に発送しています。

家族から好評の
グループホーム通信

3 成果と評価

90 歳代が半数以上を占め、平均介護度もわずかに上がっていますが、2021 度に比べ、転倒事故件数や骨折、また他要因での施設退居件数の減少が見られています。

多職種連携し、リハビリやレクリエーションを共同で行い、心身ともに機能の維持・向上を目指すことで結果、全体の重介護化を防ぐことが出来ていると感じます。

また、退居件数の減少からは、当施設での生き生き暮らしを維持、その人らしい暮らしを長く続けていける環境づくりにつながっていることが読み取れます。

	令和 3 年	令和 4 年
転倒による骨折	3	0
骨折による退居	1	0
退居合計数	3	1

令和 4 年 年代分布		
70代	80代	90代
2	6	10

90歳代が入居者の55%を占めています

☆入居年数

	半年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上
令和3年	3	7	3	4	1
令和4年	1	8	4	4	1

☆要介護度

要介護度	1	2	3	4	5
令和3年	5	4	8	1	0
令和4年	5	4	8	0	1

入居者の笑顔、生き生きとした表情を沢山発見し家族に発信したことで、入居者の満足、家族から好評いただいています。

4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

コロナ禍で日常生活が変わってしまった中でも、できることをしながら自分らしく生活して頂くことで、生き生きと楽しく暮らして頂けることができると考えています。また、家族とのコミュニケーションがとりづらい中、入居者の笑顔の様子をお伝えすることで安心して頂けると思います。

【参考資料など】

明石恵泉福祉会 HP <https://www.akashi-keisen.com/>

事例14:やさしさつむいで笑顔で未来へ

発表テーマ:認知症高齢者ケア／自立支援／利用者生き生き支援

事業所名:生活協同組合コープこうべデイサービス上ノ丸

担当者:デイサービス上ノ丸担当職員 小川 利美

施設・事業所紹介

民家を改修した1日10名定員の認知症対応型通所介護施設です。デイサービス上ノ丸のコンセプトは「第二の我が家」です。1階部分は認知症対応型通所介護施設で、2階部分に、居宅介護支援事業所と訪問介護事業所があり、日々連携をとりながら、サービス提供を行っています。

【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

民家を改修した複合型施設(認知症対応型通所介護、居宅介護支援、訪問介護)でひとりひとりの利用者の生活を支えたい。そのために、情報共有を随時行ない、人と人との顔の見える関係でサービスを提供したい。また、スムーズに利用者の思い願いを把握し、実現に向けた取り組みを行ない、利用者のくらしに寄り添いたいと考え、今回の取り組みを行いました。

2 具体的な取組内容

同じ建物の中に、ケアマネジャーとホームヘルパーの事業所、認知症対応型デイサービスの機能があります。コープこうべのケアマネジャーがケアプランを作成し、コープこうべの訪問介護サービスと認知症対応型デイサービスを利用しながら、自宅で自分らしく生活していただくためにチームとしてアプローチしました。

- ① デイ、居宅、訪問の管理者の打ち合わせを定期的に行ないました。その中で、それぞれが支えている利用者に対する定期的なアセスメントを実施し、サービス内容について共有しました。
- ② 認知症の利用者に対する適切な声掛け方法や、「生協 10 の基本ケア」をベースにスタッフ間で知識や技術を共有し、サービス提供を行ないました。
- ③ 定期的なモニタリングを実施することにより、利用者の状況を把握し、デイサービスを利用している利用者が、デイサービスで実施している掃除を、自宅でもヘルパーとともに行ない、居室の清潔を保つことができるようになりました。

3 成果と評価

令和2年10月からデイサービス上ノ丸をご利用になられている利用者において、職員の適切な声掛けにより、以下の点が出来ようになった事例がありました。

- ① 入浴時に声掛けがあれば自分で着脱が出来ようになった。
- ② スタッフが傍で声掛けをすると物事に集中でき製作レクリエーションが出来ようになった。
- ③ 食事に集中できるようになり、水分摂取が出来ようになった。その成果として体重が、利用開始当時から2年2か月で2キロ増え健康的になった(身長150センチ44.6キロ→46.6キロ)。
- ④ デイサービス内のテーブルの拭き掃除を続けることで、ヘルパーと共に、自宅でのクイックルワイパーでの掃除が出来ようになった。同じ建物の中に、3事業所が併設しているので、ケアマネやサービス責任者がデイサービスでの利用者の様子を覗いて日常生活動作の実行状況を確認し、利用者へのアプローチを統一することで、家の中での自分の役割を作ることが出来た。
- ⑤ デイサービスの中で他者との交流が出来ようになった。

4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

同じ建物の中にある複数の事業所で、法人内の理念や指針に基づき、サービス業態を超えて職員がチームアプローチを行ない、サービス提供を実施することで、利用者が、住み慣れた地域で自分らしく生活出来るきっかけをつくりたいと思います。今後もこのような取組を継続していきたいと思います。

デイサービス上ノ丸外観



利用者のデイサービスでの様子



【参考資料など】

生協 10 の基本ケア®

生協 10 の基本ケア®とは、「尊厳を守る」「自立を支援」「在宅を支援」を基盤に、生協の介護で大切にしている 10 の項目をまとめたものです。

1 換気をする



病気予防には換気が大切。新鮮な空気を取り入れ、衛生的な環境を守り、感染症を予防します。

2 床に足をつけて座る



日常生活がリハビリという考え方のもと、足を使って立ち上がる習慣を身につけることは大切です。トイレやお食事など自分でできることを増やすことにつながります。

3 トイレに座る



トイレで排泄することは、人間が暮るべき暮らしの基本と考えます。また介護の負担も大きく減ることにつながります。

4 あたたかい食事をする



食べることは生きること。ご自身で調理して盛りつけたり、おいしい方と楽しく食べましょう。誤嚥（ごえん）防止のためには、テーブルの高さも大切です。

5 家庭浴に入る



湯船にゆったりつかる習慣は日本のすばらしい文化。生活リハビリの効果を生かして家庭浴への入浴を大切にしています。

6 座って会話をする



共に時間を過ごし、寄り添いながら安心感を与えられるように、座って会話をすることを大切にしています。

7 町内におでかけをする



慣れ親しんだ地域に出かけることは社会性や精神的な豊かさを保つためにも大切なことです。

8 夢中になれることをする



日々の暮らしの中で、自分らしく好きなことに夢中になれる機会をつくることは大切です。自然に笑顔が溢れることでしょう。

9 ケア会議をする



「本当の気持ち」を大切にしながら、自分の街に住み続けられるよう、チームを組んでケアに取り組み、ご家族を食のサポートします。

10 ターミナルケアをする



「残された時間を、どこでどのように過ごし、最期のときを迎えたいか」を考えることはとても重要です。できる限り元気なうちから、取り組むことをおすすめします。



事例15:全国大会から学んだこと

発表テーマ:離職防止・定着支援

事業所名:グループホーム ふれあい明石

担当者:グループホーム課係長 梅田 敦史、施設長 堂内 仁志

施設・事業所紹介

平成 21 年3月 31 日開設。2 ユニット 定員 18 名のグループホームです。
林崎松江海岸沿いにあり、明石海峡大橋や淡路島が一望できる絶景の施設です。



【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

全国的に介護職員の人材不足が深刻化しており、職員の高齢化が進んでいます。少子高齢化の現在において、今後、職員の人材不足はますます深刻な問題となることが予測されるなかで、今いる職員の定着、教育に数年前より取り組みました。今いる職員を大切にすることにより、離職率は大幅に低下し、職員も定着してきました。

令和 4 年 10 月 26 日、27 日に三重県の総合文化センターで開催されました【第 23 回 日本認知症グループホーム全国大会】に参加し、「人材定着・人材確保」をテーマにした事例研究、事例発表をおこないました。

全国からたくさんの施設の方々が参加しており、それぞれ「人材の定着」に向けていろいろな取り組みをされており、多くの事を学ぶことができました。全国大会で学んだことを地域の拠点として発信していけたらと思います。

2 具体的な取組内容

- 教育、資格取得支援の充実。
- 外国人技能実習生の受け入れ。
- 福利厚生の見直し。
- 有給休暇・リフレッシュ休暇の促進。
- 職場環境の見直し。
- 高齢者職員の積極的な雇用。

3 成果と評価

- 教育、資格支援を進めることにより、介護福祉士やケアマネジャーを目指す職員が増え、職員の意欲が向上した。また、在職している職員が資格取得することにより新たに職員を募集、雇用する必要がなくなった。
- 外国人技能実習生を受け入れることにより、教える側の職員のモチベーションや知識・技術が向上した。また、笑顔が増え施設の雰囲気がとても明るくなった。
- 職場環境の見直しや、有給休暇やリフレッシュ休暇の取得を積極的に進めることにより、働きやすい環境、効率性の向上、また、職員のストレスが減り、気持ちに余裕が生まれ、職員間の人間関係が良くなった。
- 高齢者職員(70 歳以上)を現在 3 名雇用。体力的にも問題なく経験も豊富であるため、本人が望む限り雇用を継続したい。



4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

兵庫県における福祉の発信力や関心力は全国に比べてまだまだ低いと思います。明石市が兵庫県の地域の拠点となって発展していくよう我々福祉関係者はもっと協力していく必要があると思います。

今回全国大会に参加し、いろいろな県の人が自分の県の福祉の発展に向けて取り組んでいる、地域との繋がりを大切にしているということを痛感しました。

地域の拠点として「あかしの福祉」を発信する場となるよう取り組んでいきたいと思っています。



良質な安心と日々の小さな喜び
CARE ハートケアグループ